

#NICE

Numazu association for International Communications & Exchanges

Vol.22

発行者 沼津国際交流協会
(企画広報部会)

所在地 沼津市御幸町16番1号
(事務局) 沼津市役所国際交流室内
☎0559-34-2529



その笑顔、忘れません……

アセアン青年受入れ事業で来沼したタイ国の青年たち。忙しい研修の中でも常に絶えることのなかった笑顔がとても印象的でした。(写真は島郷海岸にて)

いつの日にか… また会いましょう！

— アセアン（タイ農業）青年受入れ事業終わる —

国際協力事業団の招へいで来日したタイ農業青年25人が、9月28日～10月7日、NICEの受入れで沼津市を訪れました。青年たちは、国際交流イベント参加やホームステイ体験などをおして市民と交流したほか、農業関係の各種研修で日本の技術を学びました。

歓迎会 ホームステイ



▲入場は「サワッディ」のあいさつで



▲忘れられない家族との思い出

農業研修 ▼

▼西浦みかん選果場を視察



▼花卉栽培の様子を見学



▼浴衣も着てみました



▼野菜の摘み取り作業を体験（実習）



..... 歓送会



▲お互いに再会を願って…



「トツテモタノシカッタ デス」

「NICE街'96」に多くの市民が来場

NICEでは、在住外国人と市民とが
ふれあう国際交流イベント「NICE街
'96」を9月29日にピア・オオトミで
開催しました。

今年のテーマはMINNA DE ASO
BO・LET'S HAVE FUN。外国人62
人を含む250人余りの来場者が、共に
ゲームや食事、踊りなどを存分に楽
しました。

▼みんなが挑戦「ジャンケンゲーム」



▲タイからの研修青年（左端+右側2人）も参加

▼日本の踊り「タノシイネ!!」



▼食文化の体験では「お好み焼き」も



▲「キネ」と「ウス」…!?

世界の珍しい話を聞く 国際理解教育講演会

NICE では今年3回シリーズによる講演会を企画し、これまで1回目を10月に、2回目を11月に沼津市立図書館で開催しました。ここでは、その様子を紹介します。

★第1回（10月8日）

まず、トルコ出身のハサン・ウチブリテさん（東海大学海洋学部訪問研究員・ふじのくに親善大使）がトルコの紹介をしました。トルコ人のルーツや宗教、料理など日本と大きな違いを持つ点があるかと思えば、トルコ語と日本語の文法が良く似ていること、伝統的な家では靴を脱いで入り、座って食事をしたり床に布団を敷いて寝ることなど日本と類似した点も多く、地図や写真を使っの興味深い話でした。



次に、元JTB（日本交通公社）のツアーコンダクターで海外出張の仕事も多かった植田平八郎さん（日大三島高校社会科講師）が、「日本人的発想による外国文化の誤解」をテーマに講演しました。日本人の白人コンプレックスの歴史的背景や私たちがテレビなどから得ている外国情報がいかに偏ったものであるか、また、日本の常識をそのまま携えて海外へ行くことがいかに危険を伴うかなど、当然のようで見落としていることに警鐘を鳴らしてくれました。



★第2回（11月19日）



まず、マレーシア出身の傅秀倫〔フ・シュリン〕さん（静岡県立大学4年生・ふじのくに親善大使）が、マレーシアの食文化と宗教について講演しました。マレーシアの食文化の主役は屋台が集まった「屋台街」。そこでは中国系、マレー系、インド系すべての大衆料理が楽しめ、値段はとにかく安価とのこと。料理が趣味の傅さん、「帰国して紹介したい日本料理は？」の質問に「おやこんです」。



次に、中国出身の李方〔リ・ハウ〕さん（静岡県立大学3年生・ふじのくに親善大使）が、中国の食文化について講演しました。中国では4千年前から料理人を監督する役人がいて、歴代の指導者たちも「人民には食べることが最も重要なこと」と言うほど食事を大切に考えてきたとのこと。地方によって味が大きく違い、東は辛く、西は酸っぱく南は甘く、北は塩辛く、また、南は食材が豊富なため高級料理が多い等々…。生つばをのみながら聞く講演でした。

メモ

「ふじのくに親善大使」とは、国際交流活動に積極的に参加し、将来静岡県と各国との架け橋として活躍する意志のある留学生で、静岡県知事が委嘱しています。

今年もハイレベルでした!!

英語&日本語 スピーチコンテスト

11月17日、沼津市立図書館で、恒例となった「英語&日本語スピーチコンテスト」が開かれました。

外国人は日本語で、日本人は英語でスピーチするこのコンテストは今年で5回目。今回は沼津市内だけでなく静岡県外からの出場者もありました。



今年は、日本語の部にアメリカ、ブラジル、カナダ、インドネシア、ベトナム、マレーシア、イランの7カ国から9人が、また、英語の部に日本人5人が出場し、趣味や体験談、日常感じていることや文化・言語の違いなど様々な話題が披露されました。

このコンテストでは、語学学習歴などがまちまちな出場者を考慮して内容を重視した審査基準を設けていますが、各出場者の趣向を凝らしたトピック選びに、審査員たちが入賞者の決定に苦悩する場面もみられました。

また、コンテスト終了後には参加者交流会が開かれ、出場者や聴衆、NICE 会員らが親睦を深め、和やかな一時を過ごしました。

入賞者は次のとおりです。Congratulations!



日本語の部



優勝
ナポレオンさん
(インドネシア、学生)
「ワンワンとグググッ」



準優勝
フォンさん
(ベトナム、学生)
「はつもうで」



第3位
アスルルさん
(マレーシア、学生)
「ことば」

英語の部



優勝
長 真司さん
(千葉県、教員)
「Our struggle with
katakana English」



準優勝
矢野和男さん
(大阪市、学生)
「What is failure?」



第3位
秋元陽子さん
(長泉町、主婦)
「Meeting Lin and Jack」

KALAMAZOO NEWS

Mr. ジム・ヘイス、来沼

姉妹都市カラマズー市からの英語教師ジム・ヘイズさんが8月末に来沼し、NICEでは9月26日に歓迎会を開きました。



ヘイズさんは、来年7月まで沼津市内の公立中学校で英語の指導にあたります。

ジム・ヘイズさん 一言

沼津に来てから2カ月しか経っていませんが、沼津の人たちの温かさは私の想像以上で、優雅で思慮深く、共に働くことが実に楽しいです。

日本の文化や習慣をたくさん理解したいと思っています。お返しに、アメリカやアメリカ人に対する質問に答えたいと思います。文化や習慣の違いがあっても、違ってみえるもの以上に多くの共通点があると思います。

中学校の先生ばかりでなく、市役所の方々、NICEの素晴らしい皆さんに感謝します。とりわけ、生徒たちに「ありがとう」を言います。教えることを楽しくさせるのは、彼らのエネルギーと優しさですから。

ゲイル&マット夫妻、アンナーバーへ

8月に帰国した英語教師ゲイル・ラガーさんと夫のマットさんは、その後、家族や友人との再会を楽しみ、2人で旅に出たあとアンナーバー市（デトロイトの西側）に落ち着きました。

マットさんは、ウエスタンミシガン大学で障害をもつ生徒のための教員免許取得をめざし始めたとのこと。また、アンナーバーには日本食のレストランがあって日本人客も多く、店内で日本人の会話に耳を傾けて、少しでも判る言葉があると懐かしく思ったり喜んだり…。時には2人で日本語で会話をしているそうです。

日本での生活の印象深さは忘れ難く、いずれまた来沼したいと話しています。

イーサン・シーガル先生が結婚！

カラマズーからの英語教師として沼津に滞在し、NICEとの交流も深かったイーサン先生が、盛岡出身の女性と結婚しました。

奥様のグリーンカード（永住権）取得のためには、1年間はアメリカで生活しなくてはならないとのこと。判事に結婚の司式をお願いしようとする30ドルかかり、また、赤ちゃんが生まれても税金がかかり、日本とは事情がだいぶ違いますね。

イーサン先生は、10月からスタンフォード大学の博士課程をとり、教授をめざしています。



ウェンディ、ギャリィ夫妻にベイビー！

高校時代、大学を卒業してからと、2度も来沼し、皆さんとも広く親しまれたホエクストラ家の三姉妹の長女・ウェンディさんに、待望の赤ちゃん（女の子）が誕生したという便りが届きました。

カトリンちゃんといい、一家の注目を浴びな



がらの毎日。人
の見分けがで
きるようになり、
鏡をのぞいてニ
ッコとする（さ
すが女の子！）。
すやすやと眠り
ながら突然ニッ
コリ（いい夢で
もみているので

しょうか）。

眺めても見飽きず、日に日にかわいさを増す彼女に、忙しいながらも幸せで、楽しい毎日が過ぎていきます。むずがっている時にはドライブが一番とか、すぐご機嫌になるカトリンちゃんです。もういつ沼津に連れてこようかなんて話しています。

ユエ	ヤン	シャオ	シー
岳	陽	消	息

岳陽市、大水害に襲われて被害

7月中旬に中国内陸部を襲った集中豪雨により、揚子江流域ではダムや堤防が決壊して大水害となり、友好都市の岳陽市でも大きな被害を受けました。これについては、岳陽市で日本語を教えているNICE会員の飯塚信子さんからも連絡がありました。

8月14日、岳陽市政府の人と被災地の現場へ行きました。約1カ月が過ぎていましたが、被害の状況は想像以上のものでした。

村全体が水びたしで、そこに田畑や道があったとはとても思えませんでした。家屋の屋根や樹木が水面からわずかに見えるありさまで、堤防の上にはテントがぎっしりと張られ何百人もの人が仮住いをしていました。阪神・淡路大震災直後の神戸の状況とオーバーラップしてしまい、思わず目頭が熱くなってしまいました…。



高台に避難している岳陽市民

水害義援金に多くの善意

水害による岳陽市被害に対し、NICEでは8月下旬から「岳陽市大水害復興義援金」の募金活動を行ってきました。募金箱をNICE事務局に設置したほか国際交流イベントでも募金を呼びかけ、10月27日の沼津駅周辺5カ所での街頭募金活動をもって終了。会員をはじめ多くの市民から1,262,000円もの善意をいただくことができました。



秋冷の中、市民に募金を呼びかけた

集まった義援金は、10月末に岳陽市を訪れたNICE会員の高木空穂さんをとおして、岳陽市政府の外事弁公室・柳海生主任に手渡されました。



義援金が「岳陽市民の手」に

その後、岳陽市からは「真実の友好は思いやりの友情であることを示してくれたことに感動しています。募金は皆様の友情とともに被災民のもとに届けます」とのお礼状が届いています。

5人の留学生は元気です！

9月に岳陽入りしたNICE派遣の留学生5人が岳陽高等師範専科学校で勉学に励んでいます。慣れない地での生活に苦勞しながらも、お互いに励まし合って元気に過ごしているようです。

また、水害の被害に対しては、現地で飯塚さんとともに義援金活動に協力していただいたとのことです。



TEA TIME



タイ訪問記

北部ゴールドトライアングル地域を巡って〈その1〉

「人と時間とメコンの流れ」 青木章夫 (NICE 会員)



8月11日、私たち有志8人は、タイ北部とミャンマー、ラオスに囲まれた「ゴールドトライアングル」への旅に出発しました。夏休みの旅行客で混雑する成田空港を発ち、バンコクを経由して、その日のうちにタイ北部の町・チェンマイに降り立ちました。

翌日は、午前中にドイステープ寺院や市場を見学。その後、私たちは今回の目的地の一つウィェングパパオに車で向かいました。

ウィェングパパオはチェンマイの北東、約2時間の小さな町で、そこには山岳民族の中学・高校生が暮らしている「あかつき寮」があります。「あかつき寮」とは、山岳民族の子どもたちを支援するために日本人女性の中野穂積さん（三重県出身）が建てたNGOの施設で、私たちはそこでの視察と子どもたちとの交流を楽しみにしていました。

雨の降る中、車は峠を越え、山間の道を抜けて町に入りました。幹線道路から脇に入ると、水稻の青々とした田園に囲まれた中、素朴な木の門の向こうに「あかつき寮」は静かに建っていました。寮に近づくと入口で中学生の女の子が伝統的なあいさつのワイ（合掌）で出迎えてくれ、すぐに中野さんに寮の中に招き入れられました。

ここには2階建ての生徒寮が3棟あり、モン族、ラフ族、リス族など5つの山岳民族の子どもたちが男女10人ずつ生活していました。生徒たちの村は町から何十キロも離れた山の中にあり、村を離れて寄宿しなくては学校へ通って勉強を続けることができないのです。

中野さんは、タイ北部を旅行した時にそうした実情を知り、子どもたちへの支援を個人で始めたと話してくれました。また、こうした生徒寮は近くの町・チェンライの近郊にもあり、そこではリス族の子どもたち40人が生活し、学校に通っているとのことでした。

子どもたちは、自らで規則正しい寮生活を営み、また、学費をつくるために刺繍などの仕事もしていました。

私たちが訪れた日はタイの皇后様の誕生日で、その日はタイ国の「母の日」でした。子どもたちが真心を込めて作った夕食（質素でしたが、とてもおいしいものでした）を御馳走になった後、母の日の式が子どもたちの企画で行われ、子どもたちに誘われて私たちも参加しました。式では、みんなの母親代わりとなっている中野さんに花の胸飾りを付け、タイ式の深いお辞儀をして感謝をしていました。中野さんがお礼の言葉の中で見せた涙に、私たちも胸が熱くなりました。

式の後、生徒がみんなで考えた歌や劇が披露され、電灯に集まってくるヤブ蚊とともに楽しい一時を過ごしました。そして生徒たちとの意見交換の場となり、私たちは「将来何になりたいか」を尋ねました。子どもたちは話してくれました。「学校を出て村に帰り、両親を助けたい」「知識を身につけて村で農業をやり、地域の格差をなくしたい」「村の開発、地域の開発に役立ちたい」「村の学校は設備も先生のレベルも低く、村も貧しいので小学校を終えると働く子どもが多い。だから山の学校の先生になって子どもたちを教えたい」等々。みんなの夢が語られたとき、私は「13、14の子どもなのに将来のこと、村のことを考えているなんて、何としっかりした子どもたちだろう」と感心しました。一生懸命に勉強して村のために役立ちたいとの熱意が、どの子どもからもひしひしと感じられました。

(次号へ続く)



あかつき寮で子どもたちと

TEA TIME

タイ訪問記



「豊かさの相違を感じて」

工藤英雄（NICE 会員・事務局）



今年の9月上旬、私は1週間にわたりタイ王国を訪問しました。目的は国際協力事業団（JICA）が実施している青年招へい事業（技術協力の一環として発展途上国の青年を日本に迎え入れる事業。NICEでも9月28日～10月7日にタイ国の農業青年25人を受け入れた）の現地オリエンテーション・プログラム視察と今後の事業展望の調査で、国際協力事業団や日本国際協力センターの職員と同行しました。

私にとっては初めての東南アジアで、首都バンコクとその近郊だけでしたが、五感に触れるものすべてが実に新鮮でした。そして、観光旅行とは異なり、タイ政府の要人や日本大使館の職員、青年招へい事業で訪日する青年やバンコク郊外の農民らと意見を交わす機会を得て、何よりもタイの人々をとおして日本との相違を知る貴重な経験となりました。



屋台でとる朝食は美味!

そもそも私自身、タイについては「発展途上国」というイメージを強く持っていました。特に青年招へい事業など国際協力・支援の対象国に挙げられることでも「日本は先進国、タイは発展途上国」の位置づけを、普遍的な認識としてとらえていました。

しかし、直にタイの実態を見聞し、タイの人たちと話をした中では「先進国・日本、発展途上国・タイ」は、さほど感じられませんでした。そこでは、少なくとも人間としての資質やその環境に関しては、日本が先進とは思えないような…むしろタイの方が日本以上のものを持っている印象を受けました。

それは、タイの人々は家族の絆を重んじてお互いが共に助け合っているということ、そして「マイペンライ（気にしない、何とかなるさ）」のタイを代表する言葉どおり、人々が仕事の完遂や時間に追われずに、しかも自然との共生の中でおおらかに生きているということを知り、そこに何か人間として大切なこと、（今の日本人が失いかけている？）相互扶助の精神や心のゆとり、気持ちの豊かさといったものを国民の多くが持っていると感じたからです。



チャオプラヤー川辺に建つ住居

タイでは「発展途上」の部分が多く見受けられることは確かです。首都といえども容易な造りの住居も多く、それも衛生的とは思えません。川沿いの住民は茶黒い川の水を生活の糧とし、幾度となく襲われる洪水に対しても設備は十分とはいえません。しかし、これらの見方は、あくまでも日本からみた「非近代化」に過ぎず、タイの人々にしてみれば「豊かな暮らし」といえます。いたずらに国際支援・協力の活動をするには、その国独自の「豊かさの基準」を破壊しかねず、一方的に近代的価値観を吹き込むことほど危険なものはありません。

「豊かさ」のモノサシは日本製のものが正しいわけではなく、時に他国のモノサシで日本を測ってみることも必要ではないのか——。今回のタイ訪問では、諸外国のモノサシを持つことと、それをもって自分の国を、そして自分の生活を顧みることの大切さを感じさせられました。

国際交流なんでも情報室

留学生から学ぶ

国際理解教育講演会 第3回

県内在住の「ふじのくに親善大使」から母国の紹介などの珍しい話を聞いてみませんか！今回は3回シリーズの最終回です。

- と き 12月8日(日)、午後2時～3時30分
- ところ 沼津市立図書館4階 視聴覚ホール
- 内容 ①グレアム・ロレンスさん（イギリス出身／静岡県立大学生）による「イギリスのカントリーサイド」
②ロドルフォ・レケナ・ミナミさん（ペルー出身／静岡大学生）による「ペルーの文化と音楽（ギター演奏と歌）」
- 定員 200人（先着順）
- 申込み・問合せ NICE 事務局 ☎34-2529

早めの“Merry Christmas”

クリスマスパーティー

市内在住のカラマズー出身者を交え、クリスマスパーティーを楽しみましょう。

- と き 12月12日(木)、午後6時30分～
 - ところ クレソン亭（清水町柿田川湧水公園 駐車場横 ☎76-5959）
 - 内容 ○カラマズーの歌
○ジム・ヘイズさんのギター演奏
○プレゼント交換（各自500円以内のプレゼントを持参）など
 - 参加費 4,000円（当日に集めます）
 - 定員 40人（先着順）
- ※既に参加受付を始めていますので、希望者は早めにNICE事務局（☎34-2529）へご連絡ください。



中国のお正月を一緒に！

第5回春節祭

中国の旧正月を祝う「春節祭」を、在住中国人の皆さんと楽しみませんか！

- と き 平成9年2月9日(日)、午後1時～4時
- ところ ピア・オオトミ（下香貫島郷）
- 内容 ○友好都市・岳陽市の紹介
○ゲーム、歌、踊り、軽食 など
- 参加費 1人500円（当日に集めます）
- 定員 300人（先着順）
- 申込み・問合せ NICE 事務局 ☎34-2529

スタッフ急募

NICE 共催の「アジアフェア」

静岡県国際交流協会が主催する「アジアフェア」にNICEとして出展することになりました。そこで、この展示や準備をお手伝いいただけるスタッフを募集します。

- *アジアフェアは、平成9年2月22日(土)、静岡県女性総合センター・あざれあ（静岡市）で開かれるイベントで、アジア圏における国際交流や国際協力などをテーマにしています。
- 募集定員 15人（先着順）
- 申込み・問合せ NICE 事務局 ☎34-2529

スタッフ急募

カラマズー交流史誌の編集委員

NICEでは姉妹都市・カラマズー市との33年におよぶ交流の歴史をまとめるための活動（交流史誌の編集）を開始することとなりました。そこで、この活動をお手伝いいただけるスタッフを募集します。

- *カラマズー部会員に限りません
- 募集定員 30人（先着順）
- 申込み・問合せ NICE 事務局 ☎34-2529